

## 「気になるお子さん(ADHD)の相談」の案内

【福岡県久留米保健福祉環境事務所】

学習障害(LD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)ということばを耳にされたことがあるでしょうか。

多くは学童期の集団生活において、他の子どもとの違いで医療機関を受診し、初めてLD・ADHDと診断されます。その原因は脳の中樞神経に微細な障害があるために様々な症状を引き起こすためと言われてしています。

この病気は、知的障害がはっきりしている場合を除き、幼児期に発見されることはまれで、実際は放置されることが多いようです。そのため、親は診断がつくまで自分を責めたり、悩んだりしている場合が多く、原因がわかりほっとしたという人もいます。

LD・ADHDが疑われる場合、幼児期から周囲が適切に対応していくことで、将来社会において普通に能力を発揮出来る人も多く、発明王エジソンや映画俳優のトムクルーズもこの病気だと言われてしています。

久留米保健福祉環境事務所では、幼児期に早期に対応していくことの重要性から、久留米大学病院小児科の医師等の協力により「気になるお子さま(ADHD)の相談」を実施しています。

お子さまの発達を「個性や性格として受けとめたい・・・」「気になって悩んでいるけど・・・」など親の気持ちとしてはいろいろだと思います。まずはこの機会に一度ご相談ください。

### 記

相談日	平成18年 5月23日(火) 6月27日(火) 8月 8日(火) 10月31日(火) 12月 5日(火) 2月13日(火)
時間	13:15から受付 相談時間を十分に充てるため、4人程度の予約制です
対象	就学前の幼児(保育所の先生同伴が理想です)
相談料	無料 母子健康手帳を持参ください
場所	福岡県久留米保健福祉環境事務所 母子室(3階)
申込先	福岡県久留米保健福祉環境事務所 高齢者児童家庭課 児童家庭第一係 久留米市合川町1642-1 福岡県久留米総合庁舎内 TEL 0942-30-1072 FAX 0942-37-1973

### 気になる具体的内容

- ☆ 知的な遅れはないのに、どことなく気になる
- ☆ 多動で落ち着きがない
- ☆ ことばの遅れがある
- ☆ 集団に入りにくい
- ☆ 出来ることと出来ないことに差がある
- ☆ 先生の指示がわかりにくい
- ☆ 名前を覚えるのが苦手で「あれ、それ、こんなの」など指示代名詞が多い
- ☆ 理解は良いのにことばの数が増えない
- ☆ 何でもすぐ忘れる
- ☆ 微細運動や粗大運動が不器用
- ☆ 周りの刺激が気になり、人の話を聞いていない
- ☆ ぼんやりしていることが多い
- ☆ 聞き返しが多い
- ☆ 友達と遊べない

幼児期にLDが疑われる子ども(竹田ほか、1997)